

富山県生物学会平成 14 年度春期野外研修会の記録 — 利賀村百瀬川、利賀川 —

川添憲三

富山第一高等学校 〒 930-0916 富山市向新庄町 5-1-54

A Record of Aquatic Insects on Field Observation Learning of Toyama Biological Society in 2002 Spring. — In Toga Village, Momose River and Toga River —

Norimitsu Kawazoe

Toyamadaiichi High School, Mukaishinjoumachi 5-1-54, Toyama-shi, Toyama 930-0916, JAPAN

平成 14 年度の春期野外研修会は、平成 14 年 5 月 25、26 日の両日にわたり、利賀村の百瀬川、及び利賀川で行われた。利賀村のこれらの河川は山地溪流に属し、水生昆虫（幼虫）が豊富に生息する地域である。今回は表 1 にまとめたように、採集昆虫種数は、33 種であった。表 2 に採集地と採集された種をまとめた。



採集場所 (国土地理院白木峰 5 万分の一地形図より)

セグロコシビロダンゴムシ *Venezillo dorsalis* (IWAMOTO, 1943)

布村 昇

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山県富山市西中町1-8-31

One Page of My Note on Animal Anatomy - 2, *Venezillo dorsalis* (IWAMOTO, 1943)

Noboru Nunomura: Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31,
Toyama-shi, Toyama 939-8084, JAPAN

表1 各地点での水生昆虫種数

目数	採集地	1. 谷内	2. 竜口	3. 日尾	4. 利賀	5. 細島	全体
カゲロウ種数		6	5	7	9	9	14
カワゲラ種数		0	4	4	2	1	7
トビケラ種数		4	5	4	2	4	8
その他		0	0	2	3	0	4
採取昆虫種数		10	14	17	16	14	33

表2 各種の採集された地点 (+で示す)

目名	採集地 和名	1. 谷内	2. 竜口	3. 日尾	4. 利賀	5. 細島
		(百瀬川)	(百瀬川)	(百瀬川)	(利賀川)	(利賀川)
カゲロウ目	シロハラコカゲロウ			+		
	チラカゲロウ				+	
	ウエノヒラタカゲロウ				+	+
	エルモンヒラタカゲロウ	+			+	+
	タニヒラタカゲロウ			+		
	ヒメヒラタカゲロウ		+	+	+	+
	キョウトヒメフタオカゲロウ	+	+	+		+
	マエグロヒメフタオカゲロウ	+	+	+	+	+
	アカマダラカゲロウ	+		+		
	オオマダラカゲロウ	+	+	+		+
カワゲラ目	チェルノバマダラカゲロウ				+	+
	フタマタマダラカゲロウ	+			+	+
	ミットゲ マダラカゲロウ				+	+
	フタスジモンカゲロウ		+		+	
	オオアミメカワゲラ		+	+		
	フサオナシカワゲラ			+		
	オオヤマカワゲラ				+	
	モンカワゲラ		+	+	+	
	トワダカワゲラ		+			
	ノギカワゲラ		+	+		
トビケラ目	ミドリカワゲラ					+
	コカクツツトビケラ	+				
	ウルマシマトビケラ					+
	シロフツヤトビケラ		+	+		
	<i>Rhyacophila.sp</i>		+		+	+
	トワダナガレトビケラ		+	+		
	ヒゲナガカワトビケラ	+	+	+	+	+
	<i>Ceraclea.sp</i>	+		+		
	<i>Agapetus.sp</i>	+	+			+
	双広蜻蛉			+		
アミカ			+			
ヘビトンボ			+	+		
ミヤマカワトンボ				+		
コオニヤンマ				+		

「ダンゴムシ」とは陸産等脚目(ワラジムシ目)甲殻類のうち、丸くなるものを指し、丸くならないものは「ワラジムシ」と呼ばれている。さて、「ダンゴムシ」と呼ばれるものにも、日本で見られるものだけで3科あり、私達のまわりに普通にみられる「ダンゴムシ」といえば、富山県はもちろん、関東・北陸地方から九州にかけての地域で、人間営為の及ぶ場所では通常「オカダンゴムシ」といえば、オカダンゴムシ科 *Armadillidiidae* のオカダンゴムシ *Armadillidium vulgare* と思って言い良いが、県内にはもう2種ダンゴムシがいる。ひとつは砂浜海岸にいるハマダンゴムシ *Tylos granulariferus* であり、ハマダンゴムシ科はほかのワラジムシやダンゴムシとかなり遠縁のものである。もうひとつはコシビロダンゴムシ科 *Armadillidae* に属している。セグロコシビロダンゴムシ *Venezillo dorsalis* である。オカダンゴムシ科がヨーロッパを中心に分化し、世界中に広がったコスモポリタンなのにたいし、コシビロダンゴムシ科はアジアなどに広く分布し、わが国にも昔から居た在来種ある。この2つの科もそれほど近縁ではないと考えている。コシビロダンゴムシ科は、わが国の温帯に幅広く分布し、富山県ではシイ、タブ林などの常緑広葉樹林はもちろん、二次林にもいる。セグロコシビロダンゴムシは岩本嘉兵衛により、1943年に記載されたもので記載の文章が少なく、日本語のみの記載であり、欧米の研究者からも無視され続けた。模式標本はいろいろ調査したがその指定は無いようである。

採集方法・固定・保存

落葉を粗いメッシュで振るい、落ちてきた虫を様々土壌動物中から見つけ出し、ピンセットで摘み取るか、吸虫管で吸い取る。あるいは落葉ごと持ち帰り、ツルグレン装置にかけ、白熱電球で落ち葉や土壌を乾燥させ、追い出す。ただし、メッシュの目を粗くしないと網目を通過できない。

固定については、長く残す標本として目的なら10%ホルマリンに数日漬し、70%のエチルアルコールに移す、ただし、解剖に際して、丸くなってなかなか伸びない。アルコールにつけるのは真の固定ではないが、当面の保管なら十分で、固くならないので、解剖用には好都合である。

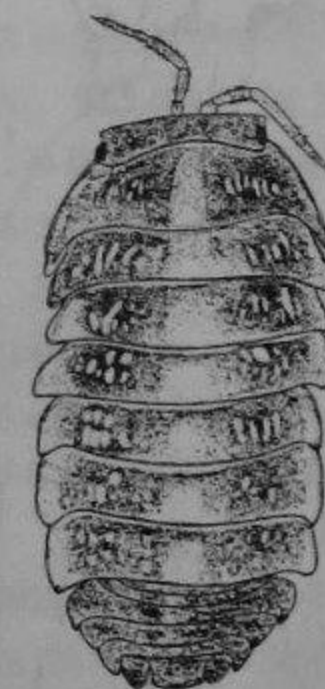


図1 セグロコシビロダンゴムシ背面 (Nunomura, 1990)